

森美術館開館 1 周年を迎えて

森美術館は 10 月 18 日に開館 1 周年を迎えます。開館にあたり、「アート & ライフ」というモットーをかかげ、以来、日常生活の中でアートを楽しもうと呼びかけてきました。開館時間を平日は夜 22 時まで、週末は 24 時までとして、52 階に併設されている展望台 東京シティビューと入館料を一体化し、誰でも気軽にアートを楽しめるようにと、これまでの美術館にない新たな試みをしてまいりました。お陰様で開館以来 200 万人を超える来館者を迎え、都心の文化の発信地として着実に大きな役割を果たすことができました。国内、海外からの注目度も大変高く、美術業界を中心として、政財界要人の方々の訪問も多数受けました。

展覧会の企画も現在開催中の「COLORS 展」や次回の「アーキラボ展」のようにファッションや建築に至るまで幅広い分野に及び、常にテーマ性を持った独自の切り口は、専門家の方々を中心に高い評価をいただくことができました。各展覧会には多くの企業のご協賛やご協力をいただき、数多くの個人メンバーおよび、コーポレート・メンバーにもご参加ご支援を得ていることは誠に幸甚です。ここに改めて感謝し、御礼申し上げます。

今後も力のある企画をここ森美術館から次々と発信していきたいと思っております。

森美術館 理事長 森佳子

2004 年 10 月吉日

森美術館の初年度は、これまで見られることのなかった視覚的な刺激を、東京そして日本において提示してきました。ジェットコースターのような疾走感の中で、新たな視点で芸術と文化を発信し、驚きに満ちた体験を愉しんでいただけたことを自負しております。1 年を経た今、そのジェットコースターは文化都心の中核である高層ビル、森タワーの 53 階に、確かな行き先を見据えて留まっています。

森美術館の「アート（芸術）とライフ（生活）」の融合をめざそうという理念は、これまでの活動を通し多くのアーティスト、来館者の皆さまにご賛同をいただきました。

また展覧会に加え近隣の学校での教育プログラム、企画展関連シンポジウム、また一般の方々に積極的にご参加いただいた、トークイベントやワークショップなど多彩なプログラムを実施しました。これらの活動で得た豊かな成果は、延べ 200 万人の来館者の皆さま、ご協賛・ご協力をいただいたスポンサーのお力添え、そしてメディア各社のご支援があってこそ実を結んだものです。

当館の特色である、テーマに基づいた独自の展示、例えばカンボジアの 9 世紀の彫刻とオノ・ヨーコのビデオ作品を同時に展示といった展覧会は、これまでにない新しい試みです。また開館初年は近代美術・現代美術の違いについて考える企画を行い、日本、アジアのアーティストやデザイナー、建築家を取り上げ、アートにおける日本の最新の傾向を紹介することができました。

このように新しい発見を提示し、紹介していく活動は 2005 年へ引き継がれ、さらに見応えある展覧会・プロジェクトとなって、来館者の皆さまの感性を刺激していくこととなるはずです。

森美術館の次なる 1 年にどうぞご期待ください。皆さまとお目にかかれることを楽しみにしております。

森美術館 館長 デヴィッド・エリオット

2004 年 10 月吉日

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

10月18日で開館から1年 総入館者数200万人を記録

六本木ヒルズの文化的シンボルとして、森タワー最上層に2003年10月18日に開館した森美術館（港区 六本木：六本木ヒルズ森タワー / 館長デヴィッド・エリオット）は2004年10月18日をもちまして開館1年となりました。

開館以来の総入館者数は200万人を超え、本年度も好調に推移しております。

今後もアートに触れる機会をさらに創出し、文化の発信源としての機能をより一層充実させる活動に取り組んでまいります。

現在、1周年を記念したプレゼント企画などが始動しています。

・感謝の気持ちをこめて ご来館者へ1周年記念プレゼント

対象期間：2004年10月16日〔土〕～10月22日〔金〕

上記期間中に森美術館53階で開催中の「COLORS展」・「小沢剛展」へご入館いただいたお客様に、先着で記念プレゼントを差し上げます。

プレゼント内容（期間中毎日）

- ・先着500名様に特製ポストカードをプレゼント
 - ・アンケートにご回答いただいたお客様に先着で、過去人気大型展のカタログをプレゼント
- ※プレゼントは毎日予定数に達し次第終了とさせていただきます。

・森美術館 チャリティー オークション 開催

2004年12月3日、52階ギャラリーにて「森美術館チャリティーオークション」を開催致します。

当日は、5人の作家（草間彌生、中村哲也、奈良美智、蠅川実花、日比野克彦）がデザインしたART X MINI プロジェクト作品の「MINI ONE」5台がサザビーズによるオークションにかけられるほか、日本の現代作家の絵画等も出品される予定です。

なお、収益金はスペシャルオリンピックス日本ほか全4団体に寄付されます。

詳細は10月15日以降の森美術館ウェブサイト WWW.MORI.ART.MUSEUM/AUCTION をご覧ください。

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦

Tel：03-6406-6111 Fax：03-6406-9351 E-mail：pr@mori.art.museum Web：www.mori.art.museum

106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

森美術館 これまでの企画展

2003年10月18日の開館からこれまでの企画展を総括します。

会期 2003年10月18日(土) - 2004年1月18日(日)

ハピネス：アートにみる幸福への鍵 モネ、若冲、そしてジェフ・クーンズへ

「アート&ライフ」を理念とする森美術館の開館記念展。すべての人にとって身近な「幸福」をテーマに、6世紀から19世紀にわたる日本美術・アジア古典美術、ロマン派・印象派を含む西洋近代美術、現代アートまで、180名余のアーティストによる約250作品を一堂に展示しました。(総入館者数 約73万人)

会期 2004年2月7日(土) - 4月11日(日)

六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004

日本のアートシーンで今、最も注目すべきクリエイターを、6人のキュレーターが選出。複数の視点で選ばれた、ジャンルを超えた57組の作品が交差(クロッシング)しました。また本展では、見る・聞く・ふれる創造的な作品群の中から、鑑賞者が投票する「オーティエンス賞」をはじめとする3賞を発表。(総入館者数 約36万人)

会期 2004年2月7日(土) - 5月9日(日)

KUSAMATRIX：草間彌生展

日本を代表する作家の一人であり、半世紀を超える創作活動で世界中に旋風を巻き起こしてきた草間彌生。

トレードマークの水玉や鏡を使った部屋など、独特のイメージーションから生み出された近作・新作による「クサマワールド」が森美術館を覆いました。(総入館者数 約52万人)

会期 2004年4月28日(水) - 8月1日(日)

MoMA ニューヨーク近代美術館展

モダンってなに？：アートの継続性と変化、1880年から現在まで

MoMAの多様なコレクションから絵画、写真、映画、デザイン、建築作品など約250作品を、これまでにない切り口とストーリーで紹介した展覧会。19世紀末から現代にいたる近代アートの流れを一貫した説明でつづり、新たな「モダンの物語」を浮かび上がらせた。(総入館者数 約25万人)

会期 2004年5月29日(土) - 7月19日(月・祝)

イリヤ&エミリア・カバコフ展「私たちの場所はどこ？」

寓話性に満ちたユニークな絵画やインスタレーションで知られ、世界的に活躍するロシア人アーティスト、イリヤ&エミリア・カバコフの待望の新作展。異なる3つの時代の異なる展覧会が1つの空間に同居する、かつてない不思議さと驚きに満ちた展覧会となりました。(総入館者数 約10万人)

MAM プロジェクト 001-002

MAM プロジェクトは、日本だけでなく世界各国で芽生えている豊かな才能に注目し、紹介するシリーズです。

会期 2004年1月31日(土) - 3月28日(日)

MAM プロジェクト 001：サンティアゴ・ククル

MAM プロジェクトの第1弾として紹介したアーティストは、サンティアゴ・ククル(アルゼンチン生まれ・在米国)。工業製品に、アート素材として新たな息を吹きこんだククルの作品は森美術館を飛び出し、東京シティビュー内(森タワー52階)に展示しました。

会期 2004年5月29日(土) - 7月19日(月・祝)

MAM プロジェクト 002：ジュン・グエン=ハツシバ

第2弾のジュン・グエン=ハツシバ(日本生まれ・在ベトナム)は、現在ホーチミン・シティを拠点とするアーティスト。数々のビデオ作品で国際的評価を得ています。本展では沖縄で撮影されたビデオ作品の新作を海拔250メートルの森美術館で観る、というスペクタクルな体験となりました。

【現在開催中の展覧会】

COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI

会期 2004年8月24日(火) - 12月5日(日) 森美術館53階
会場一杯に広がる「色」の魅力。17世紀から現在までに色彩が果たしてきた役割を、京都服飾文化研究財団(KCI)収蔵品を中心に、総計87点の衣装から読み解いていく展覧会です。ファッション・デザイナー、ヴィクター®ロルフによる会場構成とコレクション映像が華麗な色彩世界をつくりだしています。

小沢剛：同時に答える YES と NO!

会期 2004年8月24日(火) - 12月5日(日) 森美術館53階
1990年代以降の日本を代表するアーティスト、小沢剛(1965年、東京生まれ)の世界初個展。牛乳箱の中で様々なアーティストによる展覧会を開催する、世界最小の画廊《なすび画廊》をはじめ、シニカルかつユーモラスな独自の小沢芸術が展開中。過去17年間の主要作品・本展のための新作も登場。

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER



パブリックプログラム アートとライフをつなぐ一年

森美術館パブリックプログラムは、オープン後の1年間、次の4カテゴリーのプログラムを実施し、「アート」と「ライフ」をつなぐ場を作ってきました。

- 1. 一般プログラム**：赤ちゃんから大人までが参加できるトーク+ツアーや、より深くアートについて考え、体験するシンポジウムやレクチャー、ワークショップを行っています。バイリンガルで、また聴覚障害、視覚障害を持つ方々へのサポートも提供しています。
- 2. スクールプログラム**：幼稚園、保育園から小中高大、専門学校の生徒、先生が授業の一環でアートを楽しむお手伝いをします。事前打合せをし、トークやレクチャーなど、個々の学校のニーズに合わせたカスタマイズされたプログラムを行います。MOMA ニューヨーク近代美術館展では、32校、1,329名にご利用いただきました。
- 3. コミュニティープログラム**：港区を中心に地域に生活する人々と連携して実施するプログラムです。六本木クロッシング展では、出品アーティストが地域のお年寄りと共に演芸会を行いました。また区立の児童館と連携して乳幼児と保護者向けツアーなども行っています。
- 4. サポートスタッフプログラム**：研修後、トークの実施やイベントの運営など、パブリックプログラム実施のサポートを行い、一歩踏み込んでアートに接する機会を提供します。現在20名が活動しています。

パブリックプログラムに関するお問い合わせ

森美術館 学芸部パブリックプログラム Tel: 03-6406-6101 (直通) Fax: 03-6406-9351 E-mail: pp@mori.art.museum



MAM コンテンポラリー メンバーシップ・プログラム イベントリポート

森美術館の開館以来、MAM コンテンポラリーがメンバー向けに開催した主なイベントをご紹介します。

個人メンバー イベント

- ・6月12日 **ベネファクター昼食会**
エリオット館長のギャラリーツアーの後、森美術館スタッフを交え、楽しい昼食会を行いました。
- ・7月2日 **イリヤ・カバコフ 《十の人物(アルバム)》の上演**
能役者・笠原拓郎氏によるテキストの朗読で、カバコフの独特な世界観が繰り広げられました。
- ・7月13日 **MAM コンテンポラリーナイト & 新メンバーウェルカム・パーティー**
館長とキュレーターの金、MAM コンテンポラリー名誉会員でTV・ラジオパーソナリティーのクリス・ペプラーさんと音楽家オノ・セイゲンさんによる、アート&ライフをテーマにしたトークショーを行いました。

コーポレート・メンバー イベント

- ・4月22日 **チーフエグゼクティブ交流会**
各コーポレート・メンバー代表者の方をお迎えし、館長、副館長、森美術館のスタッフとの食事会を開催。スペシャルゲストとして、MAM コンテンポラリー名誉会員でもある女優 高橋恵子さんのトークもお楽しみいただきました。

* MAM コンテンポラリーは森美術館が提案する、アートを楽しみ、有効に美術館を利用していただく為のメンバーシップ・プログラムです。

お問い合わせ 森美術館 MAM コンテンポラリー係 Tel: 03-6406-6123 (平日 月~金 10:00 - 18:00) E-mail: mamc@mori.art.museum



PRESS RELEASE プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

今後の展覧会ハイライト

[2004年～2005年]

1. ジョージ ジェンセン の100年展：スカンジナビアン・ジュエリーとシルバーウエア

会期：2004年10月30日～11月21日 会場：森美術館 52階

北欧を代表するデンマークの宝飾ブランド、ジョージ ジェンセンの創設100周年を記念した展覧会。1世紀にわたるジョージ ジェンセンの代表作を映画「愛と精霊の家」で知られる国際的映画監督ピレ・アウグストのプロデュースにより5つの季節（夏・秋・冬・早春・春）で構成、展覧します。本展覧会はデンマーク国立美術館で開催後、世界各国に巡回。日本では森美術館で開催いたします。

2. アーキラボ：建築、都市、アートの新たな実験 1950-2005

会期：2004年12月21日～2005年3月13日 会場：森美術館 53階

建築家、アーティスト約90名による模型、素描、映像などのプロジェクト220点を、建築史の流れに沿って紹介し、1950年代以降の建築における主要な実験と、これから生じる建築の新たな革命の行方を浮かび上がらせていきます。本展は世界中の膨大な建築資料のコレクションを持つフランス、オルレアン市のサントル地域現代芸術振興基金（FRAC CENTRE）との共同企画展です。

3. ストーリーテラズ：アートが紡ぐ物語（仮題）

会期：2005年3月末～6月（予定） 会場：森美術館 53階

現代アートにおける物語性に着目し、ストーリーを感じさせる絵画、写真、ビデオなど多彩な作品を紹介します。現実と非現実の間をさまよう不可思議なイメージの奥にひそむ様々なテーマ・家族、人種、ジェンダーなど・は、今を生きる私たちが対面している問題でもあります。アーティストが「語る」物語と今日のテーマとの関係を探ります。

4. エレガンス・オブ・サイレンス（仮題）

会期：2005年3月末～6月（予定） 会場：森美術館 53階

東アジア（中国・台湾・韓国・日本）の古来の美術や哲学が現代のアーティストにどう受け継がれ、また革新されているかに着目する展覧会。4カ国のアーティストによる絵画や彫刻、インスタレーションなど多様な表現方法の作品を通し、国々のアイデンティティや文化の違い、類似性を提示します。

5. 中国東西交流の国宝展（仮題）

会期：2005年7月2日（土）～9月4日（日）（予定） 会場：森美術館 53階

漢代（紀元前202～220）から唐代（618～907）までの1千年以上にわたる中国の歴史を「時代の軸」と東西交流と南北交流という地域間の「交流の軸」という2つの軸で構成する、かつてない観点からの展覧会となります。中国の文物のみならず、漢滅亡以降中国に渡った外来の文物、初期中国仏教美術など、多数の世界初公開、国宝級文物が中国全土に渡る各博物館より出品されます。

6. 杉本博司展（仮題）

会期：2005年9月～2006年1月（予定） 会場：森美術館 53階

ハーシュホーン美術館&彫刻庭園（米国）との共同企画です。

[2006年～]

・AFRICA REMIX：現代アフリカ美術とその未来（仮題）

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅して構成、展覧します。著名なアーティストから若手アーティストまで、アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、パリ国立近代美術館、ヘイワード・ギャラリーを巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

・ベルリン・東京展

ベルリンを中心としたドイツと日本の関係に焦点をあてながら、両国の20世紀前半から現在までの文化・芸術の影響関係を探ります。日本におけるドイツ年の参加企画として、絵画、彫刻、写真、建築、商業芸術などを総合的に紹介するほか、日本・ドイツの現代美術作家を相互に紹介。本展は森美術館で開催後、ベルリン・新ナショナルギャラリーに巡回します。

・ホット&スパイシー：アジアのクリエイターの今を描く

アジアのアート&カルチャーをリアルタイムに紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギー溢れる芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅して紹介します。本展覧会には日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品が展覧されます。

・路上の詩：フランス近代写真の軌跡

写真史の上でも魅惑的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

・ビル・ヴィオラ回顧展（仮題）

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER